

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句: わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。(ヨハネによる福音書10:11)

保育目標: 0歳児・自分でやってみようとし、できたことを喜ぶ。冬の遊びを楽しむ

1歳児・神さまに愛され、守られていることを知る。友だちと一緒に遊びを共有する。

2歳児・神さまに愛され、守られていることを知る。自分の思いや遊びが尊重され満足感を感じる。

3歳児・新しいことに興味を持ち、繰り返し遊ぶ。お正月遊びを楽しむ。

4歳児・遊びの中で楽しさを見つけ、繰り返しじっくりと取り組んで満足感を得る。

5歳児・友だちと時間をかけて思いを実現していく過程を楽しむ。自然を感じながら屋外で遊ぶ。

新年明けまして、おめでとうございます。

年末にかけて日増しに寒さが厳しくなりましたが、北風を感じて風のように走り出す子どもたちの姿に、新年から元気をもらいました。

コロナ禍での年末年始でしたので、外で遊ぶ事が多かったのではないのでしょうか。寒さが厳しい日にはついつい室内にこもりがちになりますが、園庭には色々な木の実がなっていたり沢山の葉が落ちてきたりして、この時期ならではの遊びが生まれ、子どもたちの表現をさらに豊かにしてくれています。

12月の初め、新宿御苑まで足を運び、保育ナチュラリストのフォローアップ研修に参加させて頂きました。ナチュラリストの資格を取得した後に受ける研修で、自然と触れ合う遊びの知識をより深く学べる研修です。研修ではそこで出会う自然物に実際に触れ、遊ぶことを通して名前や特長、そして自然の事象について講師の先生から教えて頂きました。

今回の研修中、講師の方がある木の実を拾って話して下さったことが、とても印象的でした。大きな白い花が咲く木で、花が散ると大きな実だけが残り木にぶら下がって落ちてきます。それは、六浦こども園の庭にもある木で「タイサンボク」という名前です。毎年拾って集める子どもがいるので、私も親しみのある木でした。講師の方が「子どもたちがこれを、“プラ~の実”と名づけていつも遊んでいます。」そして続けて「それで、いいのですよね。」と言ったのです。「乳児の時期には、名前を知るといふ事より感じたままが良いですよ。発信する事は、表現することの第一歩なので・・・。」とも言われました。つい、「これは、〇〇というんだよ」と学んだ事を教えて“あげたい”と思っていた自分は、はっとさせられました。

日々新しい事に出会い、見て、触って、嗅いで、「何だろう?」といつも心を動かしている子どもたち。初めてだからこそ大人では気がつかない事に気付き、感じる事が沢山あるのだと思います。特に自然は常に同じではないからこそ、新しい発見で溢れています。私たちはその時を子どもたちと一緒に楽しみ、一緒に感じられる保育者でありたいと改めて思いました。

先日、つばめ組のA君がぐるぐるすべり台を上っている途中で、「ねえ、せんせい!見て!!くもり!」と上から私を呼びました。何か見つけたのかなと思いながら、あがって行くと「クモのクモリ!!」とA君が指していたのは“くもの巣”でした。「ほら、見て~、ビヨ~ンてしてるでしょう?」と得意気な顔。どうやらクモの巣の特徴は理解している様子なのですが、「クモのクモリ」というA君。何でだろう?と私は思いつつも、この時は「ほんとだ、ビヨ~ンてしているね」と、一緒に観察しました。何かの特徴からそう呼ぶのか?勘違いして覚えているのか?今もその謎?は分からないままです。これから一緒に遊びながら、この謎に迫っていきたくて今、楽しみにしています。

同じ場所にも、大人にとっては当たり前になっている世界が、子どもにはどのように映って見えているのでしょうか?

ふとした一言に耳を傾けてみた時、大人にも心が弾む時が訪れるかもしれませんね。

今年も、神さまに守られて子どもたちと豊かな時が過ごせますようにと心から祈ります。

主任 星野 陽子